

令和5年度第75回卒業証書授与式
校長式辞

木々の梢を揺らす風に、新しい季節の到来を感じる頃となりました。

本日、福井県立高志高等学校の第75回卒業証書授与式を挙げるにあたり、本校PTA会長高村 昌裕 様、同窓会会長 吉田 正武 様 をはじめとする御来賓の皆様、ならびに保護者の皆様の御臨席を賜り、心よりお礼を申し上げます。

また、高志高校・中学校の在校生の皆さんにも出席してもらい、全校で卒業生の門出をお祝いできることは、誠に嬉しい限りです。

さて、ただいま、卒業証書を授与した237名の皆さん、卒業おめでとうございます。

卒業生の皆さんは、3年間、高志中学校にも在籍した皆さんは6年間、本校での様々な活動に前向きに、そして誠実に取り組んでくれました。各場面での皆さんの真摯な姿は、在校生のよきモデルとなっただけでなく、私たち教職員にとっては大きなエネルギーの源でもありました。

私が皆さんと共有した場面の中で、心に強く残っていることを一つお話しします。それは、大学の推薦入試に挑戦した皆さんとの対話です。

皆さんが書いてきた志望理由書には、

- ・大学で研究したいことについて
- ・大学で得た知識や能力等を活かして将来取り組みたいことについて
- ・社会の諸問題をどのように解決したいかについて
- ・世の中の人々にどのような貢献をしたいかについて

といった思いが溢れていて、読むたびに感銘を受けたのを覚えています。

私は、皆さんの理由書の完成度を高めるために、「なぜそのように言えるのか?」「具体的にはどういうことか?」など、内容に関する質問を次々と投げかけました。それを受けて、皆さんは、人によっては何度も、私のもとへ足を運んでくれました。受験勉強で忙しい皆さんを苦しめているのではないかと心配になることもありましたが、私は、可能な限りやりとりを続けることにしました。皆さんが自分の内面を省察し、将来への思いを確固たるものにするチャンスにしてほしいと考えたからです。

誰にでも、現在のステージから新たな一歩を踏み出すべき時が繰り返し訪れます。そのようなとき、「自分はどうか?」「自分は何者か?」といった問いに向き合わなければなりません。ところが、自己との対話は、往々にして私たちに不安を覚えさせ、新たなチャレンジをためらわせます。

それは、どうしてでしょうか。

私は、心地よく感じる場所に居続けたいと願う人間の習性が一因ではないかと考えています。それは、人間が偏見や思い込みに支配されやすい傾向があることと関係があるのかもしれない。

例を挙げると、

- ・自分にとって都合のよい情報ばかりを集めようとする
- ・ある人や物が顕著な特徴を持っていると、他の面についても肯定的な評価を下そうとする
- ・危険性を過小評価し、「自分は大丈夫」と考えてしまう
- ・周囲の人たちに合わせて行動しようとする

など、アンコンシャス・バイアスと呼ばれる心理的働きによって、私たちの思考は偏り、判断が歪められ、行動が影響を受けてしまうということです。

これらの「思考の癖」には、私たちに心理的安全性を与えてくれるという利点があります。人間が原始的な生活を送っていた時代には、人類の発展に大きな役割を果たしてきたとも考えられています。

一方で、これらは、今の時代にあっては、少々厄介なものでもあります。確かな情報分析と適切な状況判断が阻害されてしまう恐れがあるからです。そのような状況を避けるためには、人間のこのような本能や習性をよく理解し、常に自らの行動をコントロールするように努めることが肝要と言えるでしょう。

その鍵を握っているのが、皆さんが本校で取り組んできた探究的な学びではないかと、私は考えています。

- ・自分の好きなことや興味のあることを対象としながら、
 - ・「なぜか?」「本当にそうか?」「他にないか?」といった批判的な思考に基づいた仮説を立て、
 - ・実験や観察、調査などの具体的行動から得た情報を、
 - ・分析的思考・論理的思考のフィルターに通して検証する
- というプロセスに沿って思考し、行動することが、陥りやすいバイアスの罠から私たちを救ってくれるのではないのでしょうか。

私たちの校訓にある「創造」。「創」という漢字には、「きず」という意味があります。新たなものを創ろうとする際には、これまでの考え方ややり方に「きず」を付けることが求められますが、それを必要以上に恐れることはないということを、認識しておいてもらいたいと思います。

また、これからの人生において、自分の思ったように行かない時があるかもしれません。そのような時には、次のように考えてみることをお勧めします。

- ・今すぐに結果を出そうと思うから、できないように感じるのではないか。
- ・今までのやり方にこだわるから、できないのではないか。
- ・自分一人でやろうとするから、できないのではないか。

これらを言い換えれば、

- ・時間をかければ、来年には、あるいは数年後にはできるかもしれない。
- ・新しいやり方でなら、解決の糸口が見つかるかもしれない。
- ・誰かと一緒にやれば、乗り越えられるかもしれない。

のような考え方をしてほしいということです。

これまで「当たり前」と思っていた考え方ややり方を、一度疑ってみてください。「こうであ

るべき」「こうでなくてはならない」のような感覚が生じたときは、それを異なる角度から見つめ直したうえで、試行錯誤を重ねるようにしてください。

「克己」「創造」「敬愛」の校訓のもと、様々な経験を積んできた皆さんなら、自己修正と自己修復を繰り返しながら、「自ら考え、自ら目標を設定し、自ら学び、責任を持って行動する人」として、新しい時代のリーダーに相応しい活躍をしてくれるものと確信しています。

皆さんが卒業したあとも、高志高校は、高志中学校とともに、自分の夢を見つけ、それを実現するために果敢にチャレンジしようとする生徒のための学校として、試行錯誤と更なる成長を続けたいと考えています。

これからは、皆さんは同窓生の一人として、高志高校を見守り、応援してもらえると、非常に嬉しく思います。

最後になりましたが、保護者の皆様には、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

これまでの学校生活を経て、立派に成長されたお子様達が卒業の日を迎えられ、皆様のお喜びはいかばかりかと存じます。

お子様たちには、様々な経験を糧にしながらか、自己の可能性を広げていただきたいと願ひ、私たちはこれまで精一杯支援させていただきます。

皆様方には、これまで、本校の教育活動に格別のご理解とご協力を賜りました。教職員を代表して、心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

卒業生の皆さん、校歌に込められた「高志の心」を、いつまでも持ち続けてください。

「玉の緒の命を愛（お）しめ」

命が与えられていること、「今」という時間を享受できること、様々な出会いがあることの意味をかみしめながら、これからの人生を大切に過ごしてください。

「天地（あめつち）は我らを待てり」

社会の発展、人々の幸福のために自分の力を活かすという気概を持ち、さらに学び続けてください。

「海山の花としならむ」

皆さん一人ひとりが、選んだ領域で輝きを放ち、未来の風景に彩りを加えてください。

卒業生の皆さんが、よりいっそう充実した人生を歩まれ、さらに成長・発展されることを心より祈念し、式辞といたします。

令和6年3月1日

福井県立高志高等学校長
山内 悟